



【学校図書館&授業づくりのヒント 12ヶ月： ②読み聞かせで心をつかむ】



学校に慣れ、元気いっぱいの子どもたち…。

話を聞いて欲しいときにちょっとざわついている子どもたちも、「さあ、本を読みますよ」とひと声かけると、たちまち先生の手元に集中し、期待感あふれる表情を見せられます。

子どもたちは、「読み聞かせ」が大好きです。自分で本を読むのは苦手という子どもたちも、先生に読んでもらうのは大好きです。

高学年になると、はじめは「読み聞かせなんて…」と斜めに構える子どもたちもいますが、本心は違います。読み聞かせを続けているうちに、「今日の本は何だろう」と待っていてくれるようになります。

読み聞かせをする本は、最初は絵本が良いでしょう。小学校1年生から6年生まで、いえ、中学生にも絵本はおすすめです。絵本は、年齢を問わず楽しめる力をもっています。読み手も聞き手も慣れてきたら、ときには長編を何回かに分けて読むのも良いですね。「続きは明日のお楽しみ！」という言葉への反応も味わってみてください。

4月から5月にかけての読み聞かせにおすすめの絵本を紹介します。



『ともだち できたよ』
内田麟太郎 / 文
こみねゆら / 絵
文研出版

『おかあさん、げんきですか。』

後藤竜二 / 作
武田美穂 / 絵 ポプラ社



『まつげの海のひこうせん』
山下明生 / 作
杉浦範茂 / 絵 偕成社

『みんなからみえないブライアン』

トルーディ・ラドウィッグ / 作
パトリス・バートン / 絵

さくまゆみこ / 訳 くもん出版



『ウエズレーの国』

ポール・フライシュマン / 作
ケビン・ホークス / 絵

千葉茂樹 / 訳 あすなる書房

まだまだおすすめの本がたくさんあって紹介しきれません。学校司書や司書教諭にたずねて、「本のプロ」と仲良くなってください。

東京学芸大学 デジ読評価プロジェクト

特命教授 對崎奈美子

